

生きた証を  
残そうと

# 年寄四人八十八四国巡り

笠井理平 嶋崎健三  
島中俊郎 渡辺聡 共著



笠井理平  
嶋崎健三  
島中俊郎  
渡辺聡

[共著]

雲辺寺



秩父と 88 一番から高野山までの朱印





88 一番から高野山までの御影

# 道中&三ツ観光(1)



途中、  
鳴門のサービス  
エリアで明石焼  
きを食らう





道中 & 観光



徳島の  
LED祭と  
早朝風景





四国の城  
高知  
今治  
松山





道中&三ツ観光



美波の海岸  
ウミガメの産卵地



土佐の高知で



桂浜と龍馬像





# 道中&三ツ観光!



道後温泉

茶器でのんだコーヒ  
ーは美味しかった。

道中&三三観光

足摺岬と  
灯台





道中&三二観光



しまなみ海道、  
大山祇神社  
で半日休憩

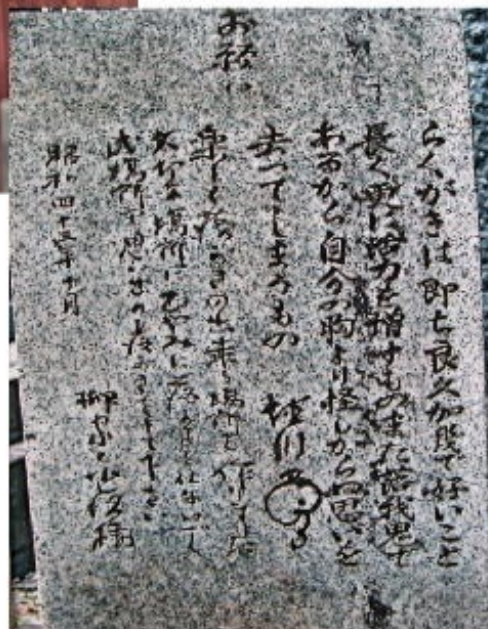


# 道中&三観光!

右  
ニッキ飴と  
ニッキの葉採取



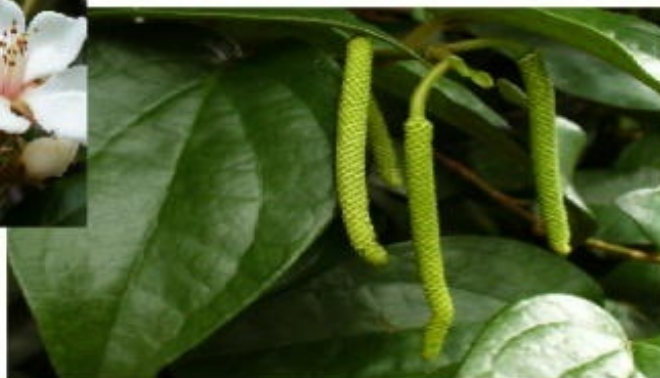
茶を一服 (岩屋寺)  
金悟郎の落書き帳  
(高野山)







道中の花々





編集後記

早朝3時過ぎに行田を出発し、東松山ICより、関越道、圏央道、中央高速道を利用しての身延山へのドライブ旅行でした。談合坂SAで朝食の予定であったが夏休み期間中のせいか家族ずれで満員の状態、一つ先の双葉SAにて朝食。途中、南アルプス市にある笠井氏ゆかりの菩提寺、墓地を参拝、瑛園で桃を注文し、身延山久遠寺へは10時半過ぎの到着でした。身延山には約2時間滞在し、南アルプス市内で昼食、日帰り温泉で汗を流し、行きに注文していた桃を引き取り帰途についた。それにしても暑い一日でした。(當中記)





後に、能登 総持寺を巡る

# 年寄り4人 八十八 巡り

共著 笠井理平  
鳴崎健三  
畠中俊郎  
渡辺 聰

企画 (G) テクノ・クリーン





目次

編集後記	巡礼十三日目 の記録	巡礼十二日目 の記録	巡礼十一日目 の記録	巡礼十日目 の記録	巡礼九日目 の記録	巡礼八日目 の記録	巡礼七日目 の記録	巡礼六日目 の記録	巡礼五日目 の記録	巡礼四日目 の記録	巡礼三日目 の記録	巡礼二日目 の記録	巡礼一日目 の記録	車遍路の計画	旅のきっかけ
	二〇五頁	二〇〇頁	一九八頁	一八六頁	一七四頁	一六二頁	一五〇頁	一三九頁	一二八頁	一一六頁	一〇四頁	九二頁	八〇頁	四九頁	三三頁

**S 遍路は、徒然に歩いて？**

実は車に乗せてもらい巡拝する事に。  
夜、笠井さんから「夜中は雪のようなので17日午前〇時出発で・・・」

の連絡をもらう。雨のわりに寒く  
「雪、珍しい・・・!」と思いつつ、息子に送らせる。

零時、予定通り出発。雪の為、東名高速を利用、途中、淡路島SAで明石焼きを食べ、初日は快適に進行。

## 旅のきっかけH

この旅のきっかけは二年半前（二〇〇八年九月）にさかのぼる。小生（畠中）、先祖の墓参りを兼ねて兵庫、鹿児島へのドライブ旅行を計画していた時である。鹿児島からの帰途、大分から松山へフェリーで渡り、鳴門大橋を経由して神戸に向かう予定であった。その際、徳島出身の笠井氏に四国での宿泊地の相談をしたときのことである。同氏曰く、「四国を一日、二日で通過するだけでは勿体ない、四国旅行は別に計画してみても……。」とのことであった。

そこで思いついたのが、テクノGメンバーによる車巡礼である。来年以降の都合のよい時期にと思いつつ、笠井氏本人が現役であり、いつになることやらと思っていた。が、昨年来の大不況のおかげ（笑い）で早めに実現することになった。



## 車遍路の計画H

先に述べたとおり、少なくとも小生にとって、四国遍路の動機はハッキリしたものではない。どちらかといえば、観光旅行に近く、車好きなこともあり、若い頃から四国八十八ヶ所の寺を走破することを夢見ていたのかもしれない。

そうは言うものの、グループ行動である。人それぞれ、動機もあり、遍路に関する思いや考えもあるであろう。

遍路の方法は、自家用車による車巡礼で当初から暗黙の了解が得られていた。八十八ヶ所、延べ千五百キロメートルを歩き遍路でこなすことは、時間的にも体力的にも？・・・と考えたのは小生だけではなかったようだ。

具体的な行程計画を作成するに当たって、先ずは所要日数の調査から始めることにした。インターネット検索による車遍路体験者の記録、後述する

佐伯住職のご意見等を参考に、高野山巡拝、予備日等を入れて十二泊十三日と決定した。

次に、日にちであるが、高速道路料金の割引を考慮し四月十七日（土）の出発、帰りを二十九日（祭日）の十三日間とした。

一日ごとの行程では、納経所の受付時間（七時～十七時）を勘案し、スタンプラリーにならないよう考慮した。

## 旅の準備 W

以前から会話に出ていた四国八十八ヶ所巡りが実現をした。綿密なプランは畠中さん、笠井さんが立ててくれた。その厳密な準備には感心、感心だ。

宿泊予約や資料集め、ルート、走行距離、日程、休憩時間場所、予算、案内依頼、巡礼支度品入手、印刷、配布、巡礼作法、観光地、見所、食べ物、みやげとぬかりない。便利な時代、ほとんどインターネットで調べ、予約もできる。みなさんパソコンが得意なのだ。

予算も、走行距離やルートにも無関心、就いていくだけの自分にとって、おかげでチャンスをもたらえたとし、費用も安くあがったし、感謝、感謝である。せっかく行くのだから何か目標をと、興味のあるニッキの調査を兼ねる魂胆である。

年寄りの集団、多くの感傷は得られなくて当然なのだが、畠中さんは食べ歩きも気になるようだし、詳細にスケジュールを組むことを楽しみにしているようでもある。笠井さんは故郷の友人たちが気になるのだろうか。嶋崎さんは？検討がつかない。自分と同じか？

八十八巡りを少しは知ろうと思って読んだ誰かの本（車谷長吉）にはウンチの話ばかり、結局、寺それぞれの印象は無いのだ。出版されている本も圧倒的に観光案内主体が多いし。



**W**

準備といっても、小生はついてい  
くだけ、仲間にお任せである。魂胆  
はニッキの調査が主だが、行くから  
には秩父で予行演習をして、写経な  
る物を完遂させたい。

秩父を一ヶ月かけて、少しづつ歩  
く。巡礼着、納札、杖、納経を実行  
する。写経も、最初はマジックペン  
で、途中から筆ペンで百枚は書いた  
か。が、いまだ覚えず。マー意味を  
読んだのだから OK か。筆も覚えた  
し、これで良いことにしよう。

般若心経は角川の単行本を百円で  
買って来た。何度も写経をしながら  
部分部分の意味を理解する。

五蘊は皆、空なりと照見して～。

東松山に五蘊という料理屋がある。  
変わった名と思っていたが、写経を  
するようになって般若心経に出てく  
ると知った。心経の知識がある主人  
かと思う。

**仏説摩訶**

## 巡礼の始に

平成 22 年 4 月 17 日  
場所：第一番札所  
授戒：佐伯憲真ご住職様（笠井氏ご友人）による



あらためて、笠井です



嶋崎健三です



仏様は一つ、宗派は無関係・・・



渡辺聡です



高木俊郎です  
愛車と共に

## 巡礼一日目の記録H

それぞれの思いを胸に！！

出発当日「関東地方は降雪」の予報を受けて、急遽、出発時刻を早め（午前零時過ぎ）、また、走行経路も当初の中央高速道経由を東名高速経由に変更した。

今では、本州から四国まで淡路島を挟み、明石海峡、鳴門海峡とも橋で結ばれ、あっという間である。昔は当然、船で渡ってきたのだろうが、船を下りてこの先の遍路に向かって第一歩を踏み出したとき、どのような感慨を抱いたのであろう。

S 御遍路さんの支度をと  
思ったが、やめて、普段  
着に決めた。

お寺さんのことはワカラ  
ナイのでその他の部分が多  
く、特に朝散歩・夜散歩で  
行きます！。



四国車遍路の旅は、鳴門市にある靈山寺を出発点とする。正式名称は四国八十八ヶ所の一番札所竺和山靈山寺である。さすがが一番札所、山門の周辺には“巡礼グッズ”を販売している店があり、ここで買い揃えたのか白い装束を着た遍路の姿を多く見かけた。

参拝を前に、笠井氏の友人である佐伯住職と待ち合わせ、巡礼開始に当たり受戒を受けた。佐伯住職の「仏様は一つ、宗派は無関係・・・」の一言により形にとらわれることなく、巡礼のスタートを切ることが出来た。

- W 八十八巡りはいかなる心境なのであろう。  
 人のことを観察する。  
 予行演習でいいかげんさも見てきた。  
 今度は一人でないから雰囲気は楽しめない。  
 多くの巡礼者は歩いているわけではない。  
 やたらと団体の巡礼が煩わしい。  
 これが強欲の集団のように思える。

## 般若波羅蜜多心經

巡礼グッズもきりがな  
い。各人まちまちであつ  
たが、小生、参拝に必要  
な数珠、ろうそく、線香  
そして納め札と最小限に  
とどめ、他に、念のため  
納経帳を用意した。  
因みにメンバーの家の  
宗派は真言宗、日蓮宗、  
浄土真宗そして神道とそ  
れぞれである。

W 納札も巡礼回数で色が異なる。  
赤金銀いろいろ。百回とか回る人がい  
る??? 疑わしい。商売で案内して、  
その結果、回数が多いだけではないの  
か。案内人兼先達なら可能か。まじめ  
に歩く人も中にはいるであろうが、団  
体客のご都合主義が目に入る。

比較して、秩父は若い人が、たぶん  
学生であろうがお経を唱えて巡ってい  
る。歩いている人も、自転車の人も。  
もちろん年寄りの車もいるが。

行く四人も、知識が異なる。おそらく  
目的も異なるだろう。

## 観自在菩薩

W

畠中さんは最近、寺の役員をしているとか、やたらと詳しい仏教の知識、そしてやたらと宗派が気になる。最澄、弘法大師等々にも詳しい。

企画、案内役は笠井さん。丁寧に、まじめにすべて、先を歩き、巡った。先達をつとめる友があり、この方が案内をしてくれる。御朱印帳は7万円で売れる？といいだした。

神も仏も一緒に嶋崎さん、入り山門をすべて撮る。水族館で撮った魚の顔が誰かに似ると畠中さんとはしゃいでいる。

どっちでも良い自分は、適当でごまかす。神と仏と全部の交通安全札を買った。本当はニッキを調べたい魂胆あり、写真も古い写真機で霧の中や山中の雰囲気撮りたい自分である。

## 深般若



### 一日目 4000 歩。W

早朝出発予定を、雪模様であるので突然、出発を早め、4月16日夜遅く出発。季節はずれの雪が舞う。中央高速をやめて東名を走ろうということ。案の定、夜中であるが行田を出るあたりから雪が降り始めた。加須インターから東北自動車道に入る頃は雨交じりの雪が多くなる。

運転はおまかせであるから何処をどう走ったかろう覚えである。途中ナトリウム灯であろうか、自分の目にはきつすぎる、やたらと明るい地下道を走る。目が疲れるトンネル内の照明、特にナトリウム灯はだめだ。

ひたすら名古屋をめざす。富士もみえただけ。覚えがない。大阪を外回りで淡路島に入る。

### 波羅蜜多を行ずる時

### 淡路島。W

この島には良い思い出がない。姫路に来たとき、しかも女房孝行のつもりで、たこフェリーで淡路にわたり、明石海峡大橋のたもとのホテルを利用をした。高価なホテル代をとられた割に、サービスも部屋も最悪であった。

自転車を借りようと思ったが無い。釣り竿を借りようと思っても無い。釣り竿を買いに行こうとしたら TAXI も無い。なんだこのホテルは？。

民宿以下だ。楽天の hotel 評価欄には最悪の hotel とコメントを書いた。大阪、神戸のリゾート地のようなから、熱海と同じ思想かも。

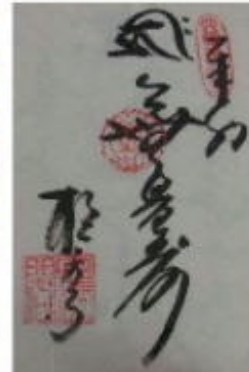
五蘊は皆、空なりと







第2番札所日照山極樂寺



「長命杉」  
樹齡 1200年有余









H

さて、巡礼一日目の巡拝は、当靈山寺から順番に、二番日照山極楽寺そして三番札所の亀光山金泉寺までの予定であった。が、天候により出発時間を早めた関係で四国入りが早まり、さらに、札所が比較的集中しており、平地でもあり車走行も順調に推移した。四番黒巖山大日寺、五番無尽山地蔵寺、六番温泉山安樂寺そして七番札所の光明山十樂寺と四つの札所を多く回ることが出来た。

今晚の宿は、鳴門市内の「鳴門ホテルはま」夕食は近くの魚料理店。

「四国入り 先ずは鳴門の 桜鯛」

## W

午前中には第1番、靈山寺に到着。先達を頼んだ、笠井さんの親友、僧侶でもある佐伯さんを待つ。

寺の仏前で佐伯さんから、仏教の事、空海の事など教えていただく。空海という人はかなりやり手であったようだ。留学も数年で済ませ、先輩最澄よりも要領よく天皇に近づき、力を持ったという。頭も良かったし、バイタリティもあり、金儲けの才覚も、強欲もある。俗に言うすぐれた人物なのだろう。

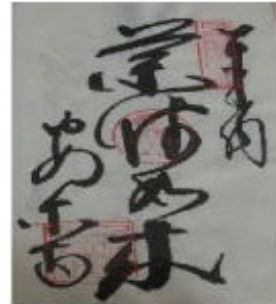
佐伯さんからお接待の酒、茶菓子をお戴く。お酒は運転のため遠慮させて戴いたが、後で気がついたこと、遠慮してはいけなかったかもしれぬと笠井さんが言い出した。たぶん、佐伯さんはお清めをして、持ってきてくれたであろう。お接待は受け取るべき物らしい。

一切の苦厄を度したもう。









## K 佐伯憲真君との思い出

彼とは中学1年から3年まで同クラスである。長好寺住職の長男あった。お寺は、中学校の隣であったから、放課後や、休みに本堂でよく遊んだものだ。彼の父親が5年生の時他界し、小学生のころから檀家回りをしていた。彼は、高野山高校を卒業後、京都御室仁和寺で住職修行していた経歴を持つ。

京都に遊びに行った時、仁和寺の玉座に座らせて戴いたことも、当時一般人が立ち入り禁止の奥の間まで見学させてもらって光栄だった。

昭和20年の夏休み2人で札幌から釧路まで各地のお寺に宿泊しながら2週間の無銭旅行をした。阿寒湖では、アイヌ人の酋長の息子（岩谷力男さん）と仲良くなった。アイヌの人を集めて頂いて、アイヌの芸を鑑賞しながら、夕食、ビールまでご馳走になった。また阿寒湖畔のみやげ店で、とびこみ宿泊したなど懐かしい。

彼はまた、交通事故や、いろいろな病気で、三途の川を行き来した経験者でもある。今も心臓の具合が悪い。

小生と同じぐらい字がへただったのだが、卒塔婆の文字は、どうしているかが心配！！

生涯の友である。



W 四国の1番で朱印をもらった。

1番、75番、88番の寺で巡礼着の背中に御朱印を戴くことにしている。これにはすでに秩父の1番、34番が背の両端に押しあてられている。中央上部、首筋は高野山の御朱印を押しあてた物と教えられている。

午後、近くの寺を回る。極楽寺、金泉寺、そして大日寺、地藏寺、安楽寺、十楽寺と7ヶ所をクリアした。近くに在るので早い。

門前に秩父で見かけた小坊主の案内板があった。裏を見たら秩父のサインがある。

ひときわ目に付く朱塗りの宝塔は3番、この後の寺が楽しみになる。この色は不思議な色、記憶に残る。無光沢の赤？、エンジ？、寺のこの色は好きである。

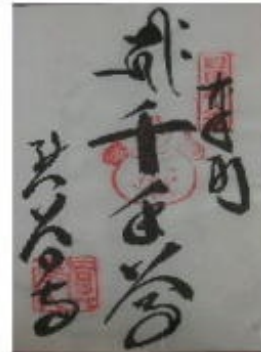
甥っ子の菩提寺に朱塗りの柱と梁の交差する部分に緑と黒と白との組み合わせでツバメ？のイメージデザインが描かれていた。これも印象的な寺の色彩であった。

舍利子よ

第七番札所光明山十稜寺



第8番札所 普明山 熊谷寺





第9番札所正覚山法輪寺





# 第10番札所得度山切幡寺







第11番札所金剛山藤井寺



## 巡礼二日目の記録H

朝食後、本日の遍路を直ちに開始、先ずは、あ  
る種の事情（納経業務の一部がセルフサービスにな  
っていることに気が付かず）で昨日巡拝済みの二番  
極楽寺に立ち寄る。本日の最初の巡礼先である八  
番普明山熊谷寺に向かう道中にあり、行程に影響  
を及ぼすことは無かった。

無事所要こなし、八番普明山熊谷寺、九番正覚  
山法輪寺、十番得度山切幡寺、十一番金剛山藤  
井寺と回る。道中道の駅で軽食を食らい、標高九  
百三十メートルの山腹にある、八十八箇所でも難  
所の一つといわれる十二番磨廬山焼山寺に向かう。  
徒歩では十二、五キロメートル、六時間を要す「遍  
路ころがし」といわれているらしいが、車では遠回り

（安全ルート、四十三キロメートル、一一〇分）になるもの  
幾つかの狭い道を通るが特別に難所でもない。

### K 白川さんとの出会い

10番入口付近で通りがかりに巡礼一般の挨拶、その時は何も印象がなかった。

帰り再び出会う。11番藤井寺の藤の花のお話を伺った。香川県から来ていて、娘さんが亡くなったため、奥さんの気を紛らわすのにお参りをしているとの事だった。

12番、焼山寺の納経所付近で再度、白川さんに会う。白川さんはこの焼山寺でお参りを済ませ香川に帰るとか。

ご婦人のご親戚は、埼玉、群馬の行田寄りにあるとか？来た事もあるとの事。白川さんは、70番本山寺の近くに住んでいるので、お昼前後に本山寺に来た場合は、是非電話するようにとのことだった。評判のうどん店（白川うどん店）を案内するという。

楽しみだ！！



### W 夕飯はホテル「鳴門はま」の近く

の料理やで、鯛のあら煮付け、海苔茶漬けである。ここで食べた青海苔のお茶漬け、美味しかったなー。アオノリは生の海苔だ。初めての食感である。

早速ニッキの話を持ち出したが知らぬらしい。町の人だね。

二日目、1万歩。日曜日である。今日も良い天気、7番から11ヶ所巡る。

熊谷寺、法輪寺、切幡寺、藤井寺、ちょっと離れて焼山寺、同じ名前の大日寺、常楽寺、国分寺、観音寺、井戸寺、恩山寺と回る。寺の思い出があまり無い。平地であるからはかどる。

11番、藤井寺、鴨居の彫刻見事。

12番 焼山寺。杉の参道を登る。ここは集団が多い。日曜のせいかな。車で上れないから皆巡礼姿で歩く。

葛折りの参道から杉の木越に下の参道を眺める。まっすぐの杉の木の間を巡礼者が登り降りする姿をしばし眺める。様になっている巡礼者は先達か。途中に仏の数々が安置される。

まだ桜花の残る山の上、疲れ座り込む人たち。畠中さんも疲れが目立つ。ここまでほとんど一人で運転をしてきた。

13番 大日寺に古木と大きな石の灯籠あり。

### 色は空に異ならず

第12番札所摩盧山焼山寺





第12番札所摩廬山焼山寺





### 第13番札所大栗山大日寺



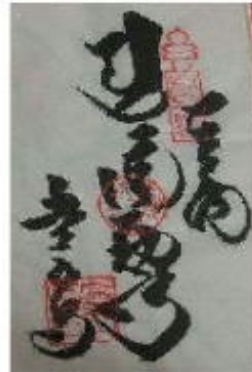
大日寺の山門と国道を挟んで真向かいに一宮神社がある。



# 一宮神社



# 第14番札所盛寿山常寺





H  
 引き続き、十三番大栗山大日寺、十四番盛寿山常楽寺、十五番札所国分寺、十六番光耀山観音寺、十七番瑠璃山井戸寺、十八番母養山恩山寺と順調に当日の巡拝を終え、前述した小松島を経由し、当日の宿、徳島市内の「徳島東急イン」に入る。  
 本日も、当初の計画十三番までの予定を十八番までと大幅に前倒しすることができた。

阿波小松島の焼き竹輪 H  
 本日の最終である第十八番札所母養山恩山寺を巡拝後、小松島名産の竹輪を求めて小松島市内を迷走したが見つからず、結局は、当日の宿「徳島東急イン」隣接のデパ地下でゲット。阿波小松島の焼ちくわは、小魚の身を練り合せ青竹に巻きつけて焼いている。過去に食したことがあるかどうか思い出さないが、懐かしい味がした。

### W 15 番国分寺。

納経所で話し込む笠井さん。彼はよく話しかける。これなら知り合いも多くなるだろう。人見知りの多い自分には真似が出来ない。心を入れ替えねば！

空は色に異ならず

後日談である。四国出身の友人に話をしたところ、「焼き竹輪”には食べ方があり、そのままかぶりつくと竹の周りにちくわがくつつき、きれいに食べられない。あらかじめ竹を抜き取るときれいに食べられるとのこと・・・。抜き取るのにもコツがあるとのことであるが試しようがない。いつの日か、焼き竹輪と再会する時を楽しみにするこ  
ととする。

### S 徳島東急イン

夕食は畠中さんの友人の、その知り合いの小料理屋さん。

徳島ではLEDのイベントをしていたので見学。阿波踊りの練習をしている。少し練習参加、ステップからしてうまくいかない。

4月19日

朝、駅の反対側に徳島城址公園があり、天守閣跡に登れば徳島が一望できると、出かけたが、登り口が見つからず、公園散策。

第15番札所薬王山国分寺





W

寺の多くはコメントの書きようが無い。車谷長吉も感情巡礼の中では「糞のはなし」ばかり書いていた。

巡礼集団と行列に何の意味があるのか。おばちゃんたちの列と案内役？。先達たちが代表してお経を唱え、束ねた納経帳に朱印を押してもらおう。効率は良いかも知れぬが味気なさぶんぶん。

記帳も、いやいや、だらだらと書く女坊主？がいる。事務員か？。はりっきり書く坊主もいる。いろいろな人間模様である。

色即ち是、空なり

第16番札所光耀山観音寺







第18番札所母養山恩山寺



**W 18 番 恩山寺も階段の上。**

子供が手すりにつかまりながら登っていく。

集団多く、納経所が混む。風呂敷にまとめて何十冊も持って納経所を占有する。専門の係りである。納経所の人が好意で我々のような個人の記帳を割り込ませてくれた。

彼らの納経書をかいまみると何度も押している印が見える。2回、3回と集団で来て納経しているようだ。しかし写経文を集団で納めているのは見たことが無い。

先達がお経を唱え、各自納札してすぐにバスに戻る。強行スケジュールなのだ。休みの日だけ巡っているのかもしれぬ。

徳山東急インに泊まる。ビジネスホテルはきれいだ。安いし便利でもある。

周囲を歩く。LEDの学会があるとか。LED祭りとかで川をLEDで飾っている。さすが蛍光体の町、日亜化学の寄付なんだろうな。みな青色LEDのおかけか。阿波踊りも練習をしていた。

考えてみれば大阪圏だ。四国というと、離れたイメージを持つ俺が世間知らずだ。LEDのメッカに何となく納得。

そうか！それで Mr.SIMM は、電話してきたときに、「昨日徳山から帰ったばかりだ」と言ったのか。台湾からだか彼も LED が仕事だ。ケイタイは便利だ。

**空即ち是、色なり**

第19番札所橋池山立江寺





## 巡礼三日目の記録H

市街地の中心にある徳島東急インから朝の通勤渋滞を気にしながら、国道55号を南下し、十九番橋池山立江寺に向かう。次の二十番霊鷲山鶴林寺から山に入り、二十一番舎心山太龍寺と前述した阿波の三難所を巡拝した。太龍寺へのロープウェイ乗場の駐車場にある「道の駅鷲の里」で昼食を済ませ、二十二番白水山平等寺を経由し、次の二十三番言医王山薬王寺で徳島と別れを告げ、国道22号を更に南下し高知に入る。時間に余裕が生じたため、第四日目に予定していた二十四番室戸山最御崎寺、二十五番宝珠山津照寺及び二十六番竜頭山金剛頂寺を巡拝した。

## W 三日目、8千歩。8ヶ所。

十九日。19番、立江寺からである。故意に合わせたわけではない。偶然、こうなった。昨日は平地が多かったせいかはかどったな。

## 受想行識も

因みに、二十四番と二十六番は本日の宿である「民宿竹乃井」の近隣に存在している寺である。

夕食は、室戸岬の観光案内所推薦の店、やはり、魚中心。期待していた「鯨の刺身」はイマイチ、ご飯と味噌汁が美味しかった。

### 阿波の三難所H

本日の行程には、昨日の十二番札所磨廬山焼山寺とともに阿波の三難所と言われる二十番札所霊鷲山鶴林寺、二十一番札所舎心山太龍寺が含まれていた。いずれにしても歩き遍路の話であるが、十二番、二十番共に急勾配の参道が続くが車では特に気にならない。

二十一番は標高六百メートルのところにあるがロープウェイを利用すると僅か一〇分で上れる。当寺は別ルートで上ると駐車場から二キロメートルの山道を歩くことになるらしい。別ルートで上がってきた巡礼者は、どうやら、二十番を抜かしてきたとのこと・・・、戻るかどうか迷っていた。

## W 20 番、鶴林寺も

山の上だ。二重塔、九輪が際だつ。

ここは良い写真が撮れた。雰囲気が良い。二重の塔を背景に木の枝を撮る。気に入っている写真の一枚である。表紙に採用した。(ただし、女房には不評である。)

ここは勝浦町、千葉の勝浦を思い出す。駐車場でスダチ酢を購入、宅急便で家に送る。みやげだ。このスダチ酢はおいしい。スダチは笠井さんから時々頂くことあり、サンマのシーズンには懐かしい。

なぜ寺は山の上にあるんだろう、趣が良いのだろうか。大きい神社はか下？。大山は上だったが。

## またかくの如是



第20番札所靈鷲山鶴林寺



第21番札所 心山太龍寺



大龍寺に登るケーブル  
カーは眼下に、 暴れ  
川 那賀川を望む。









## W 21 番、太龍寺。

ケーブルカーから眼下を望む。蛇行する那賀川、暴れ川という。山桜がきれい、つつじもきれい。岩の上に、オカミの家族が吠える。モニュメントを配置してあるのだ。修行をした岩が見える、像をたててあるようだ。

天井の龍絵、どちらから見てもこちらを見ている。一定パターンだ。寺絵のはやりだったのかもしれぬ。写真にするとこちらを見ない。

花のきれいな時期である。しだれ桜に山桜、椿、芍薬、などなど。寺の天井絵も花に囲まれた釈迦像。

花は特別な意味があるのか。  
誰もがきれいに感ずる。

舍利子よ



### K 23番 薬王寺

約60年前 小学校の夏季トレーニング？、日和佐海岸で1週間過ごす。  
夜は、海がめの観察。早朝、宿泊施設から薬王寺までのランニング。相当きついシゴキ。

そのセイか当時の薬王寺の雰囲気は、何も覚えていない。

### W

室戸の岬でウツボのひものを土産に買った。臭い。一度食べてみたいと思っていたんだが、車中のひんしゅくはなはだしい。

いままでの感想は、秩父と異なる事に折り鶴がない、彫刻の良い所は多いなど。

諸法の空相は





## ウツボの加工品H

二十三番札所薬王寺を巡拝後、美波の海岸（海亀の産卵地）に立ち寄った。当地は、昨夜の夕食の場所を紹介してくれた友人の生まれ故郷でもある。また、寺の近くにある道の駅では、ウツボ、クジラの加工品等を購入した。クジラ肉の燻製はビーフジャーキーに似て美味である。ウツボはどのように加工したのか判からないが、車の中で開封したとき、強烈な匂いを発生、その後の処置は不明（誰が食べたかな？）。

後で分かった事であるが、少なくとも数日間  
はメンバーの一人が持ち歩き、最終的には廃棄  
処分としたとのことであつた。

## W 23 番

薬王寺の古木と石垣。  
石垣越しの室戸の海を眺める。  
海岸に降り青ウミガメの飼育場で休む。  
笠井さんは小学生の頃、  
ここの荘で～学級を過ごしたとか。  
サーフィンをするには  
あまりにも静かな海である。  
でも海はいいなー。

## 不生不滅

S 24 番最御崎寺

三十数年前ユースホステルがあり、広いお堂に宿泊した記憶はあるが、  
どこだったろう？  
出かけたが、登り口が見つからず、岬の公園散策。

W

竹輪を求めて走る。竹の芯が残っているやつ。休みの日なので店が開いていない。思い出を食べさせたかったのであろう。

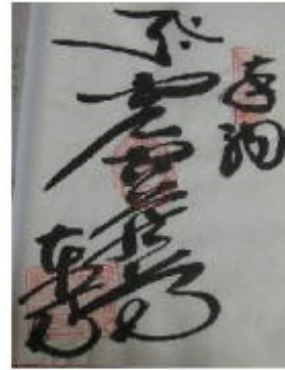
ここでは無かったかな？？  
自分の記憶はいいかげんだな！

室戸の岬、先端に 24 番、最御岬寺がある。

不垢不浄

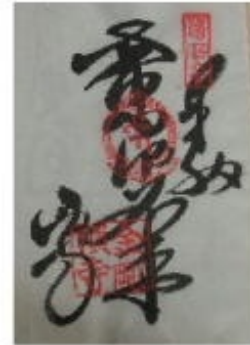


第24番札所室戸山最御崎寺











W

25 番、津照寺。この寺も高い階段。中国風の？  
竜宮風の？山門をくぐっていく。石垣の美しさが  
良い。ツタが這い、寺の屋根を望む鐘。

鐘石

かりそめの石にてあれど かつ打てば  
鐘かとまがふ 音の高くも

国沢新兵衛

鐘石はどちらだったっけ？

26 番 金剛頂寺

室戸の宿、竹の井は印象がある。悪い印象で  
ある。ここは駄目だ。田舎の宿なら田舎の宿ら  
しくせよ、民宿なら民宿らしくせよと言いたい。  
海水浴時期にサービスお構いなく来る客で盛況  
だからやっていけるのかな。

淡路の明石海峡大橋のたもとの HOTEL を思  
い出す。すべての宿が気に入る訳ではない。こ  
れも良否バラツキがあって当然といえは当然だ  
が。

毎夜のごちそう。

預けた予算金が間に合うか心配になる。

さすが笠井さん、予算通りのようだ！。

不増不減なり



## 巡礼四日目の記録H

四日目は、ここ室戸から二十七番竹林山神峯寺、二十八番法界山大日寺、二十九番摩尼山国分寺を経て、いよいよ高知市内に入り、三十番百々山善楽寺、三十一番五台山竹林寺、三十二番八葉山禅師峰寺、三十三番高福山雪溪寺及び三十四番本尾山種間寺を巡拝した。

高知市内に至るまでの道は、お馴染みの国道55号である。

竹林寺は新緑が鮮やかで、土佐唯一の五重塔の朱色がひととき美しく眼についた。当寺は、観光スポットとしても名高く、とりわけ庭園は名庭で、平成十六年に国名勝に指定されたとのことである。三十二番禅師峰寺巡拝後、桂浜に立ち寄り昼食及び海岸を散策、太平洋を見つめているといわれる坂本龍馬像の前で記念撮影。



本日の宿は、高知市内、はりまや橋近くの「高知グリーンホテルはりまや」、夕食は、ホテル周辺を散策、高知城近傍のひろめ市場内の屋台村で各人それぞれ好みの品をピックアップすることにした。

### 西本願寺別院H

その晩の夕食のため、高知城近くの屋台村へ行く途中、偶然、「本願寺高知別院」の表札を目にする。浄土真宗本願寺派（西本願寺）は小生の家の宗派である。祖先から引き継いでいるだけであるが、縁があつて、現在、埼玉東松山の菩提寺の門徒として役員を務めている。

西本願寺別院は、東京築地生鮮市場の隣にあり、買い物ついでに立寄る「築地本願寺」は別として、旅の途中で偶然遭遇した西本願寺別院は、「大阪津村」、「鹿児島」、「福井吉崎」に続いて四箇所目である。

## 土佐の飲み倒れH

ひろめ市場内の屋台村は、高知郷土料理の「かつおの夕タキ」専門店のほか数々の飲食店が並ぶ、客層といえば老若男女様々であるが、なかでも若い女性客の多さにびっくり。成年一人あたりアルコール消費量が一番多いのは高知県で、年間八十一リットル（都道府県別統計二〇〇八年）とのこと。  
さすが「土佐の飲み倒れ」のお国柄だ。

H 4月20日  
高知市内散策時、偶然、見つけました。



S

高知グリーンホテルはりまや橋。  
時間があつたので市電を見なが  
ら高知駅へ。

駅ビル、駅表にはK S 電気、と  
にぎやかだったが。

W

ビジネスホテルはすこぶる良い。きれいだ  
し、朝飯も旨いし、設備も整っている。しか  
も安い。故にビジネスホテル的なところが良  
い。3500~5000 円で泊まれる。

道後温泉など観光ホテルは朝夕食つきなの  
で1万円以上になる。これはどの地方でも同  
じ程度である。

先の淡路の HOTEL よりはずっと良い。快適  
に過ごせる。特にスーパーホテル高松禁煙館  
は印象に残る良いホテルであった。枕は選べ  
るし、朝食は食べ放題、おまけに60歳以上  
には割引もある。今後ますますビジネス  
HOTEL の清潔さ、簡便さが優位になるな。

空の中に色無きが故に



第28番札所法界山大日寺



**W 四日目。1万1千歩。7ヶ所。**

今日のキーワードは、高知、桂浜、はりまやばし、高知城の夜景、駅、食である。

高知の駅は大都会のそれと同じ。桂浜で龍馬の痕跡を感じる。あの時代は老後の安全など考えなかったであろうに。一瞬一瞬に自分の情熱を燃やしたであろう。

それに引き替え我が身はー！。

29番 国分寺。 仁王様が正面を向いて迎える。他の寺は盗難防止か、鳥防止か、大きな金網で遮られる。

ニッキの木が見えない。

皆、庭木の背が低い。

ミカンも柿木も皆低い。

柿木は白い幹？皮を剥いている？

**受想行識も無し**







隣接する神社  
明治初年まで、神仏習合の寺院として法灯を維持してきた。







## 31番竹林寺庭園

20日：  
高知市五台山、竹林寺内





**K 31 番竹林寺**

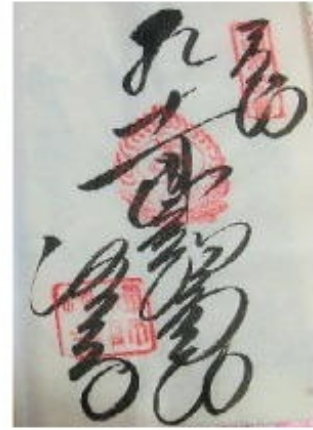
にわか雨上がりの太陽を背にした  
境内、新緑の美しさに感動だ！！

**W**

31 番 五台山 竹林寺。  
印象に残った五重塔はここだ  
けだった？庭が凝っている。  
見所なのだ。有料だが中に入  
ってしばし見渡した。きれい  
なものだ。

そういえば 29 番の国分寺だ  
ったか芍薬の花に傘を被せて  
いる、おかしい寺があった。  
屋根を葺き替えたのか雑誌の  
写真とも違うようだったが。

**眼耳鼻舌身意も無し**







**W**

**32,33,34** 番、印象は薄い。34 番を終わって高知のグリーンホテルに入る。

夕食は高知城に向かった、有名女子校の近くの集合食堂である。再度、鯛の煮付け、アンコウ、やきとり2本にビール、海苔茶漬け、加えてたこ焼きも。疲れもあり、だんだん怒りっぽい。これを癒す。高知城の夜景を撮る。四国は城が多いのだ。

**五日目朝。7000 歩。**

Hotel の窓から市電を眺める。脇腹にいろいろ書いてある。黄色をベースにした感じの良い色だ。

朝の散歩にはりまや橋、ペギー葉山の歌碑、早朝の高知の町並みを拝見。藤堂が暗殺された碑も見つける。街路樹のこぶも印象的だ。

**色声香味触法も無し**

第34番札所本尾山種間寺



この実は、境内の一角にある左の写真“ナギ”の木に実っていました。



後編に続く